

1 月 16 日 午前

ホアビン省タンラック県ナムソン村農家での聞き取り

1 月 16 日の午前中、タンラック郡ナムソン村での JVC 活動事例を見学する目的で、トゥオンさん宅を訪問した。対応下さったトゥオンさんとクエンさん（ティンさんの妻。ティンさんは研修のため欠席）は、村人の中でも特に JVC などのプロジェクトに積極的に参加し、実績を上げている方々である。

まず、トゥオンさん宅前の斜面下にある畑を見学した。ここでは六条麦や燕麦、サトイモや地元のアワのほか、日本からの支援で導入されたヒエが栽培されている。麦は食用ではなく種用にしているとのことであった。しかしながら、2008 年の寒波でネズミが米を食べられなかった影響で、ネズミの被害にあってしまったそうである。

続いて、我々はトゥオンさん宅の裏に広がる傾斜地の段々畑を見学した。ここにはミカンのほか、テフローギアなどが植えられている。この傾斜地を利用し始めた 1990 年当初は段々畑を作らず、トウモロコシを植えていたとのことであるが、年々収量が落ち、やがて、トウモロコシに実がなくなってしまうという。一時は畑を放棄することも考えたトゥオンさん一家であるが、2003 年、国や JVC などの団体の支援によって段々畑を作り、ミカンや豆類を植えた結果、徐々に土地が回復し始めたのである。段々畑を作る作業は、牛の放牧に行かない夫婦どちらか片方が行い、1 ヶ月ほどで作り上げたという。2006 年には収穫できるようになったミカンは、現在のところ自給用であるものの、将来的には売りたいとのことである。また、テフローギアの葉などを切り、土に混ぜて肥料にするほか、コンポストも利用し、土壌改良を行っているそうである。

その後、我々はトゥオンさん宅に上がり、畑で収穫された燕麦やアワなどの種を見せてもらったほか、JVC の支援によって設置された本棚も視察した。この本棚は各集落に一つ置かれ、農業や薬草に関する本を所蔵しており、農閑期には一月当たり 4 人から 5 人が借りにくるとのことである。また、参加者からの、「なぜ、ほかの人が行わないことを率先して行うのか」という問いに対して、トゥオンさんは、「プロジェクトからいろいろなものをいただくので、その結果を出したいから」と答えていた。次に、我々はクエンさんから話を聞いた。ティンさんと共に魚水稻同時作を実践しているそうで、この方法を採用してからイネの収量が上がり、魚も食べられるようになったそうである。なお、現時点では魚はすべて家族内で食べてしまっているが、将来的には市場で売りたいとのことであった。

（記録：財津信）